

### "初めての社会科" 小学3年生・・・教科書活用のポイント①

小学3年生は社会科との出会いの学年です。社会科の教科書を使うのも初めてです。そのため、子どもたちに教科書の見方を学ばせながら、その記載内容から具体的な追究活動へとつなぐ指導をすることが大切です。

今回は、小学3年生における教科書活用のポイントについて紹介します。



#### 〈小学3年生「お店ではたらく人」における実践〉

##### 〈ポイント1〉 写真等の資料と文章や言葉をつなぐ。

社会科の教科書は、文章の他に写真や図、絵等の資料が紙面の多くを占めています。したがって、文章と資料の両方が読み取れないと教科書の内容を理解することができません。そこで、文章と写真等の資料を結び付けて、教科書の内容をイメージ豊かに理解させていく指導が必要となります。

例えば、「はたらく人にインタビューする」というタイトルの写真を見せて、次のように問います。（使用教科書：東京書籍『新しい社会 3・4年上』40～61頁）

発問 写真の友達は、スーパーではたらく人にどんなことを聞いているのでしょうか。

子どもたちは一人一人、それぞれにイメージを膨らませます。少し間をおいた後で次の発問をし、教科書の文章に目を向けさせます。

発問 聞いていることは、教科書のどこに書いてありますか。

子どもたちに、教科書の当てはまる所を見つけさせ、線を引かせた後で発表させます。

教科書に「はたらく人のくふうについて、考えてみよう」と書いてあるから、くふうについて聞いたんだと思います。



あやさんが書いた文章に「お客さんに来てもらうためのくふう」と書いてあります。

このように、写真と文章を結び付けることで、インタビューの目的と内容を具体的に理解させることができます。

また、文章から写真等の資料を結び付けることも必要です。教科書の本文に、

「あやこさんたちは、柏木さんの話を聞いて、売り場の外の様子についても知りたくなりました。店の人のあんないで、売り場のおくにあるとびらの向こうがわも見せてもらいました。すると、売り場の外でもたくさんの人がはたらいていることがわかりました。」

とあります。この文章を読んで、次のように発問します。

**発問** 売り場の外ではたらいている人の写真はどれですか。

すると、子どもたちは、「くだものを切る人」、「天ぷらをつくる人」というタイトルの写真を見つけます。写真にはそれぞれ吹き出しが付いていて、たくさんのお客に来てもらうための働く人の工夫が記されています。そこで、吹き出しの文を読み、写真をよく見せます。子どもたちは、ここで初めて写真が表している内容を具体的に理解します。そして、インタビュー活動から新たな追究活動が展開していくといった見学学習の一つのモデルについても学ぶことができます。

また、教科書には、あやさんたちのグループが売り場の外を探す挿絵が載っており、子どもたちに挿絵を見せることで、見学学習の臨場感を持たせることができます。

## 〈ポイント2〉 教科書の内容と身の回りの事象をつなぐ。

教科書に記載されている事柄は例示であり、子どもたちが実際に追究活動を行うのは、自分の住んでいる地域です。したがって、教科書の内容だけを学んでも、実感を伴った理解にはつながりません。そこで、教科書で学んだことを活かして、「自分の住んでいる地域ではどうか」と学習を進めていくことが必要になります。

例えば、教科書40頁の「スーパーマーケット」、「商店がい」、「八百屋」というタイトルの写真を見せて、

**発問** 私たちが住んでいるまちには、こんなお店や商店街がありますか。

と問い、教科書の内容から自分たちの地域へと目を向けさせます。

そして、教科書41頁の「白地図」を見せて、

**指示** みんながよく行く店を白地図の上に表してみましょう。

と指示して、学習活動を地域へと広げていきます。

**資料と文章を結び付ける指導を大切にすることで教科書の内容をより具体的に理解させることができます。**

**今回は、小学3年生における統計資料(グラフ)の導入について紹介します。**

